酒井たかえとともに女性と政治を考える会
代表　古川充伸　／　副代表　山本弘子
酒井孝江 事務所（実家・自宅）
奈良市学園緑ヶ丘2-8-15 〒631-0026
電話・FAX 0742-44-9196
カンパ先：郵便振替口座 00980-2-139831
http://www1.kcn.ne.jp/~takae-sa

★無駄な公共事業を無くし、福祉・集会施設をつくろう！
★安心して子どもを産み、育てられる街にしよう！
★情報公開を進め、市政をみんなのものにしよう！

酒井たかえ ニュース

2008年4月21日発行　（再生紙使用）　No.18

後期高齢者医療保険制度の見直しを求める陳情書が、県議会で可決されました

酒井が代表をしている「奈良市を見まもる会」が、奈良市を見まもる会」が、奈良県議会と奈良市議会に提出していた「後期高齢者医療保険制度の見直しを求める意見書について の陳情書」（資料①②）が、昨年十二月十三日の県議会で梶川虔二県会議員（社民党）に提案されました。意見書案の4つの項目のうち1番目は自民党の反対で削られたものの、全会一致で可決されました。（資料③）市議会にも一部の政党・会派へお願いに回りましたが、この陳情の意見書案については取り上げられませんでした。

都道府県議会での可決は十一例目くらいですが、全会一致は初めてではないでしょうか。市町村議会でもやはり奈良県の下市町が全会一致でした。今年3月時点で地方議会の同様の意見書は五三〇以上で可決されています。

これだけ全国で反対の声が上がっているこの「後期高齢者医療保険制度」は、医療費を抑えるために国民の命を切り捨てる制度です。小泉元首相時代に強行採決で成立しました。

七五歳以上を「後期高齢者」と呼び、それ以下の世代との病院・診療所に払われる診療報酬を別建てにし、格差をつけます。七五歳以上の全ての人が保険料の負担を求められ、大多数が「年金天引き」で保険料を徴収されます。七五歳以上に手厚い医療をする病院・診療所ほど経営が悪化するようになり、高齢者は、“粗悪医療”や“病院追い出し”を迫られます。

保険料を滞納すれば「保険証」から「資格証明書」に切り替えられ、「保険証」を取り上げられます。

これまで老人保健法に基づいて住民全員を対象に行っていた基本健診はなくなり、今年4月から四〇歳以上七五歳未満の被保険者を対象にした特定健診が始まりますが、七五歳以上の特定健診については努力義務となっています。

酒井は今まで日本が世界に誇れる宝が二つあったと思います。1つは戦争放棄を謳う憲法9条。もう1つは世界一の長寿の国であることだと思います。長寿の国ということは、人間が大切にされ平和である何よりの証拠で、それを見る若者にも未来への安心を与えます。それが今、危機に立たされています。

酒井は先日、マイケル・ムーア監督の映画「シッコ Sicko」を観て本当に驚きました。カナダ、イギリス、フランス、キューバ等では医療は無料なのです。命は金で量る物ではないという信念が貫かれていました。

先進国で唯一、国民健康保険制度のないアメリカは、毎年1万8千人が治療を受けられずに亡くなっていきます。ところが日本の厚生労働省はアメリカ型の医療制度にしようとしています。

WHO（世界保健機関）は日本の医療制度は優れていると認めてきました。米大統領選候補のヒラリー・クリントンは以前、医療制度を学ぶために部下を日本へ派遣しました。マイケル・ムーア監督はインタビューで「日本の医療制度はすばらしい。だが、政府はそれをつぶそうとしている」と発言しています。

日本の今の医療崩壊の最前線が、奈良県で起きた妊婦の救急搬送でのたらい回しによる死者や死産などの被害として現れています。医師も減り全部門に医療の貧困が押し寄せています。

道路特定財源の無駄な税金の使われ方が明らかになり国民の怒りが噴出しています。税金の無駄遣いを改めさせ、命を尊ぶあるべき社会を日本は目指すべきでしょう。

昨年12月14日、提出した陳情書について、市議会で話されるかを見るため傍聴しました。市役所の議場まで行かなくとも、学園前の西部会館2階・西部出張所のテレビモニターで、本会議と委員会の様子を見ることができ、2歳の娘のいる酒井は大変助かりました。（写真）

本会議では後期高齢者医療保険制度の問題については話されたものの、「奈良市を見まもる会」が出した意見書案については話されませんでした。

一般質問の内容が分かる予定表が議場前では置いてあるのに、ここにはないので置いてくれるように議会事務局へお願いの電話を入れました。その時に「委員会の時、他の人がモニターの前に座っていたので聞こえにくかった」とふと話しました。後日、委員会の予定表が貼ってあるのと、傍聴しやすいようにイスが並べ替えてあるのを見ました。

資料①

2007年11月26日

奈良県議会
議長　　様

「奈良市を見まもる会」代表　酒井孝江
奈良市学園緑ヶ丘2-8-15　〒631-0026
電話・FAX 0742-44-9196

後期高齢者医療保険制度の見直しを求める意見書についての陳情書

新たな後期高齢者医療制度が実施されようとしています。

国は、今回の後期高齢者医療制度は、その心身の特性や生活実態等を踏まえた、新たな独立の保険制度として創設するとしています。

しかし、介護保険料と合算すると1万円を超える保険料が特別徴収され、窓口負担も「現役並み所得」の被保険者は3割とされるなど、高齢者負担は厳しいものとなっている。また、年金額18万円に満たない高齢者からの普通徴収において、滞納者に対し、資格証明書を発行し、事実上医療機関にかかれなくする制裁措置も導入されます。

さらに、現役世代とは別に、医療費削減のための診療報酬設定も行なわれます。厚生労働省や国保中央会は、後期高齢者の外来診療について、診療報酬を「定額制」とする動きを強めており、高齢者の医療保障への重大な影響が危惧されます。

ついては、次の意見書を採択されるよう陳情します。

資料②

後期高齢者医療保険制度の見直しを求める意見書（案）

2008年4月から発足する後期高齢者医療保険制度は、そもそも高齢者の医療費支出を抑制するためにつくられた制度であるため、国民全体で高齢者の医療を支える新たな仕組みづくりと政府が説明しても、その中身には改善すべき多くの問題点が含まれている。

現在家族に扶養され他の医療保険の適用となっている高齢者も、75歳になれば強制的に同保険制度に加入させられ、平均年間約7万5千円もの保険料納入を求めるなど負担が重い保険制度である。また、診療や検診が抑制され、診療報酬が低く抑えられるため、必要な医療が受けられなくなる恐れもある。

したがって、後期医療保険制度においては、できる限り保険料負担を軽減するとともに、全ての高齢者に必要な医療を保障するために、下記の事項を国に強く求めるものである。

記

1　資格証明書は発行させないこと。
2　国庫負担を増額し保険料と患者負担を下げること。
3　診療報酬の別建てはやめること。
4　被保険者である後期高齢者・医療関係者・他の医療保険被保険者代表者などが参加する「運営協議会」を設置すること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

奈良県議会

2007年12月　　日
衆議院議長
参議院議長
内閣総理大臣　あて
厚生労働大臣
総務大臣

資料③

12月定例会　意見書第24号

後期高齢者医療制度に関する意見書

昨年６月の医療制度改革関連法の成立により、来年４月から、７５歳以上の高齢者と６５歳以上７５歳未満で一定の障害のある者を対象とする独立した後期高齢者医療制度が創設され、都道府県ごとにすべての市町村が加入する広域連合が運営を行うことになっている。

一連の制度改正に対しては、高齢者に新たな負担が生じること、低所得者への配慮に不十分であること、さらには、後期高齢者医療が従来の診療報酬とは別の体系に分けられるため、高齢者は受けられる医療が制限されたり、医療内容が低下する等、同制度が実施されれば、高齢者の暮らしと健康保持にとって重大な影響を及ぼすことは必至である。

また、保険基盤安定制度への新たな公費支出等、市町村の財政的負担が多大となることが危惧されている。

よって、国におかれては、高齢者の窓口負担の引き下げや新たな保険料徴収の激変緩和措置にとどまらず、①診療報酬の別建てはやめ、国庫負担を増額し、②保険料と患者負担を軽減するとともに、③被保険者である後期高齢者や医療関係者が加わる運営協議会を設置するなど、いつでも、誰でも、どこでも、平等に医療が受けられる持続可能な医療制度とするよう、強く要望する。

以上、地方自治法第９９条の規定により意見書を提出する。

平成１９年１２月１３日
奈良県議会

〈提出先〉
衆議院議長
参議院議長
内閣総理大臣
厚生労働大臣

旧西部公民館跡地売却問題について

2月1日、近鉄学園前駅の駅前一等地である旧西部公民館跡地の売却について、購入希望者から土地開発計画を募って審査するため、奈良市は審査委員会を設置しました。
私たち「奈良市を見まもる会」は、今まで皆さまからお寄せいただいた多数のご意見を参考に、以下の要望書を市に提出しました。
ご回答があり次第、ホームページに載せますのでご覧下さい。郵送でもお送りしますのでお申し出下さい。（今までご意見を頂いた多くの皆さまにご連絡が行き届いておらずず申し訳ありません。近々ご報告するため作業を急いでおります。）

奈良市長　藤原　昭　様　　　　2008年3月25日

「奈良市を見まもる会」代表　酒井孝江
奈良市学園緑ヶ丘2-8-15　〒631-0026
電話0742-44-9196／FAX 0742-44-9196

旧西部公民館跡地売却についての要望書

日々、奈良市政発展のためご努力いただいておりますことに感謝いたします。
さて、旧西部公民館跡地について08年度中の売却を目指す市は2月1日、売却先を選定する審査委員会を設置しました。4月に募集要項を発表します。
近鉄学園前駅は奈良県内で乗降客が一番多く、奈良市や奈良県の活性化にとって非常に重要な位置を占めます。そして駅北側の旧西部公民館跡地はこの学園前の駅前一等地であり、市民にとって非常に便利で重要な財産です。通勤・通学や買い物途中に気軽に無理なく短時間で寄れ、忙しい市民生活を助けます。駅を中心にして市民は歩いて活動し、中心市街地の活性化に役立ちます。多くの市民が行き交うこの場所に、生活に直結した施設があるべきです。
私たち「奈良市を見まもる会」も度々市に対して旧西部公民館跡地を「図書館本館として拡充新設し、現西部図書館を分館に」「一時保育、病後時保育等ができる24時間保育所の設置を」「合唱と指導のできる音声館のような独立した公共施設を」等と訴える公開質問書を提出してきました。
全国805市区を対象に調べたランキングでは、保育所入所待機児童数で奈良市は750位の73人です。関西の多くの市区では0人を誇っています。
3月3日、小学校児童一人当たりの図書購入費が全国47都道府県の中で、奈良県が最低であることが報道され、奈良市の中尾教育長も「各市町村が真剣に子どもの読書活動に取り組まなければならない」と発言されました。
そこで下記の通り要望いたします。お忙しいところを申し訳ありませんが、4月2日までにFAX等でご回答いただきますようお願いいたします。なお、ご回答は公開させていただきます。

記

1，市民に対して保育所を造って下さい。
2，貸しスペースを造って、民間文庫を造るときは無料にして下さい。
3，高齢者が集えるスペースを造り、無料で貸して下さい。

日本の病院　90日ルール

ケガや病気になり病院に行く。そして入院すると90日で出て行ってくれと言われる。病院は90日を越える入院患者は診療費を減額されるので歓迎しない。180日になるとさらに減額され「追い出し」に歯車がかかる。病院は慈善事業ではない。だから赤字になってまで患者を入院させておくことはできない。
病院の玄関に荷物を持ったパジャマ姿の老人が立っている。病院からは出て行ってくれと言われ、家族は迎えに来ない。家族も転院先を探すが、奈良県内で治療不可能の患者が転院できる病院は、幸運な時で3つが限界だ。
私の母は肺ガン末期患者だったが、最初の病院は45日で追い出された。医者に問い質すと「治療見込みのない患者は置いておくことはできない」と言われた。病院は「治療する場所」だということだ。
末期ガンになると激痛もある。呼吸困難にもなる。食事も胃瘻で普通のものは食べれない。とても普通の人が介護できる状態ではない。だが、そういう患者でも病院は追い出す。転院先は自分で探せという。
奈良県内の病院を調べ入院可能な所は全て面会に行った。しかし、すぐに転院できる病院はない。個室病棟で一日3万円の差額料を払えば入院できる病院はあったが、1ヶ月60万円の負担だ。しかもその病院も90日で出て行ってもらうという。
奈良県はあきらめ、大阪、兵庫など他府県を探し、やっと入院できる病院をみつけた。入院する時に、最低1年は退院させない病院を条件に探し、介護療養病床に入院させてもらった。介護療養病床は医療病棟に比べて長期入院が可能だからだ。母は余命6ヶ月と診断され、10ヶ月で他界した。
この介護病棟が2011年に全部廃止されることが決まっている。全国で何十万人もが利用している。寝たきりの人も多く、家で介護をするには困難な人々が、2011年には全員病院から追い出される。
介護療養病床が廃止されれば、介護保険など無用の産物といっていい。実際に介護保険を使うサービスはそれほど多くない。実は介護保険は完全に破綻している。厚労省の失敗のツケを、どこにも行く場所がない介護病棟の入院患者が払わされるのだ。そして患者の家族の負担が重くなる。仕事を持っている家族は、仕事をやめて介護に専念しなけらばならない。経済的、社会的、精神的に追い詰められる。
小泉改革とは老人を病院のベッドから追い出し、パジャマ姿で路頭に放り出すことだ。イラクや米軍支援をする金はあっても、人生の最後をベッドで過ごさせる金はないのか。
この介護病棟廃止の問題は、現実に介護家族を抱えている人しか分からない。自分や家族が病気になり入院すれば、今の日本の医療が大変なことになっているのを実感するだろう。特に奈良は転院できる病院が少なく、長期介護者を抱えれば他府県に転院するしかない。2011年介護病棟廃止がどのような悲劇を起こすか真剣に考えて欲しい。（投稿：Oさん）

酒井孝江の活動記録

2007年6月16日：「奈良市を見まもる会」会議（以下、見まもる会議と表示）（西部公民館）（以下、西公と表示）／18日：女の気持ちペングループ定例会（毎日新聞奈良支局）／22日：映画「日本の青空」鑑賞（学園前ホール）／23日：姜尚中講演会「東北アジアの平和と人権を求めて」（生野区民ホール）／28日：なら女性ネットワーク会議（以下、奈女ネットと表示）（あすなら）
7月7日：奈良脱原発ネットワーク学習会ドイツ映画「見えない雲」鑑賞（平城東公民館）／わたしたちの24条の会（以下、24条と表記）会議（あすなら）／21日：見まもる会議（西公）／22日：参院選「9条ネット」の小山広明さんの選挙手伝い（兵庫県内各地）
8月18日：見まもる会議（西公）／19日：文化祭の書類提出（西公）／26日：西部公民館文化祭申込代表者打ち合わせ
9月15日：見まもる会議（西公）／23日：登美ヶ丘九条の会主催「本多立太郎戦争体験講演会」（西部県民センター）／27日：奈女ネット会議（あすなら）／9条会議
10月11日：9条会議／13日：臨時見まもる会議（西公）／17日：西部公民館文化祭会場設営／18日：文化祭の作品搬入／20日：「九条の会」奈良主催「音楽と講演の憲法60年のつどい」県文化会館／21日：西公文化祭の作品搬出／27日：なら女性フェスティバル（北部会館）／28日：24条主催「憲法・戦争・ワーキングプア」島本慈子講演会（県文化会館）
11月8日：ピース・オブ・マインド主催「森田ゆり講演会」（あすなら）／11日：24条会議（西公）／17日：見まもる会議（西公）／24・25日：あすならフェスティバル／26日：県議会事務局へ後期高齢者医療保険制度見直し求める陳情書提出／28日：市議会事務局へ後期高齢者医療保険制度見直し求める陳情書提出
12月1日：関西大学で講演傍聴／7・8日：奈良NPOセンター主催「みんなで子育て研修会」あすなら／13日：県議会で陳情が可決され県政記者室で記者会見／県・市議会の一部の党・会派・議員に翌日の市議会での陳情可決のお願い／14日：西部出張所のテレビモニターで市議会傍聴／15日：見まもる会議（西公）／22日：NPO法人フィフティ・ネット主催「女性を議会へ！バックアップスクール仲間・ホンネ座談会&交流会」ドーンセンター

世界の女性

「三井マリ子ホームページFem-News」から女性と政治に関する最新記事2本をご紹介します。三井マリ子さんは、世界の女性に関するホットなニュースを翻訳・紹介しています。

■国会議員に占める女性割合、日本は世界 138 位

2月29日、国際列国同盟IPUは、世界の女性議員率ランキングを発表した。それによると、188カ国中、日本はまたまた下がって屈辱の138位。
1位は、内戦処理が続くアフリカのルワンダで48．8％。おそらく新憲法により選挙制度が変わったものと考えられる。2位スウェーデン、3位キューバ。男女平等のチャンピオンである北欧5カ国はすべて13位以内に入ったものの、クォータ制導入振興国の台頭が著しい。日本と同じ9．4％の138位には、ガンビア、グルジア、ルーマニアの4カ国が並んでいる。

■ アメリカ大統領選挙：クリントン VS オバマ

クリントン下ろしがメディアや民主党内で起きている中、3州でヒラリー・クリントン上院議員が勝利した。連敗に歯止めをかけた結果、熾烈な首位争いが今後も続く。インターネット時代の申し子とも言うべきオバマ候補は、若さと分かり安いメッセージを全身から放ってうなぎ登りの人気。アメリカは、経験と実績が証明されている白人女性よりも、経験と実績がなくてもハンサムな黒人の若者の方を選ぶのだろうかと思っていた。
フェミニストのグロリア・スタイナムはこう指摘する。「ジェンダーこそアメリカ社会の最も強い束縛である。台所に立たなくてはならないのは誰か、ホワイトハウスに立てるのは誰かという問題なのだ。黒人男性はいかなる肌の色の女性よりも以前に参政権を与えられてきたし、いかなる女性よりも早く高いポストに就くことを許されてきた」。またテニス界の女性差別撤廃に尽力してきたビリー・ジーン・キングは語る。「このなだれ現象に全人生が流されそうです。中高年女性たちが苦労して築き上げたものを、キュートな若者がかっさらってしまう」。

2007年（平成19年）9月16日（日曜日）　毎日新聞

この夏、さまざまな戦争についての映画を見た。学園前ホールで見た「日本の青空」は血が沸き興奮する映画だった。米国では有名だった憲法学者・鈴木安蔵を中心に「憲法研究会」が提出した草案が、GHQ案に多大な影響を与えたという物語だ。押しつけ憲法という一部の説を真っ向から否定するものだった。

みずくき

父の戦争体験

奈良市学園緑ケ丘　酒井孝江（44）

NHKの「鬼太郎が見た玉砕」は水木しげるの戦争体験ドラマだった。「玉砕せよ」と国から命令されたが生き残った日本兵たちを、同じ日本兵が玉砕させに来るのだった。敵と戦う戦争とは別の、何か違う方向に目的が向いていた。
人間魚雷を描いた映画「出口のない海」ともそれは似ていた。その後、「戦時期日本の精神史（鶴見俊輔）」の「玉砕の思想」を読んだ。戦争に勝てないと分かっていた日本は、国民を恐怖で縛って戦争を続けることに、全力を注いでいったのかと思った。
昨年、85歳で逝った父の片方の肩には刀傷のような跡があった。「孝江がカニを捕ろうと海岸の岩場で落ちそうになって助けた時にできた」と言われたが、私はきっと戦時中の傷だと思っていた。「パパは直接には誰も殺していない」という言葉を信じたかった。「中国で海岸の見張り番をしていたときが一番良かった。1日寝ていられた」と兵隊時代を話した父。「死んだ仲間に悪い」と軍人恩給を母が気づいて手続きをするまで受け取らなかった。あまり話をしなかったが、もっと戦争体験を聞いておけばよかったと悔やむ。